

岐阜県農業技術センターニュース No.59

水稻高温耐性品種「清流のめぐみ」の栽培条件を解明（作物部）

当センターで育成した水稻新品種「清流のめぐみ」は、「コシヒカリ」よりも高温登熟性や耐倒伏性に優れ、同程度の食味も有しています。現在は『「清流のめぐみ」産地づくり研究会』が中心となって栽培が進められておりますが、今後も猛暑であることを想定し、収量と品質を更に安定的に確保する栽培技術が必要とされています。

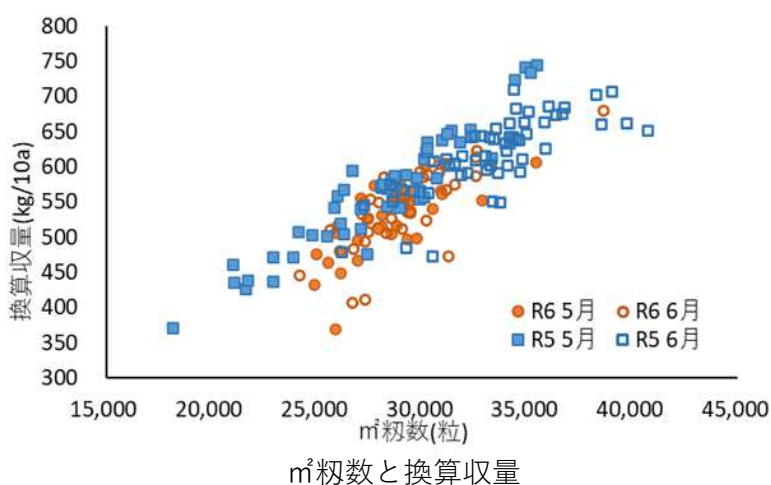
そこで坪刈収量550kg、整粒率70%、食味値80を目標値とする場合、必要条件是 m^2 粒数を確保することで、 m^2 粒数を確保しつつ整粒率及び食味値を達成するための栽培条件を以下のように解明しました。

<収量と品質を安定的に確保する栽培条件>

【移植時期】5月中旬～6月中旬まで
高温回避の観点からは期間内で少しでも遅く移植する。

【栽植密度】37株/坪～60株/坪まで
 m^2 穂数が不足しがちなほ場では栽植密度を「密」にし、 m^2 穂数は確保できるが一穂粒数がやや不足するほ場では一穂粒数を確保しやすくするため「疎」とする。

【施肥窒素量】10～12kg/10aが適量
現地ではほ場条件に合わせて増肥を行う。



鉢花用フランネルフラワーの新品種「ベラフィオレビアンカ」(花き部)

フランネルフラワーは、オーストラリア原産のセリ科の多年草で、花弁のように見える総苞片(そうほうへん)が毛織物のフランネルと同じ触感であることから名付けられました。当センターでは、世界に先駆けて鉢花用品種や有色(黄色)品種を育成しており、現在は民間育成1品種(県内)を加えた6品種があります。

民間育成品種の「リトルエンジェル」は、これまでに無い小輪で多花となる特徴から市場評価は高く、主力品種になっていますが、春咲きのために市場からは年間を通じた出荷を切望されていました。そこで、四季咲き可能な新品種「ベラフィオレビアンカ」を育成しました。

本品種は「リトルエンジェル」と同様に白色の小輪多花性で、秋の出荷も可能となることから、消費拡大に大きく貢献できます。イタリア語の美しい(ベラ)花の(フィオレ)白さ(ビアンカ)から命名しています。



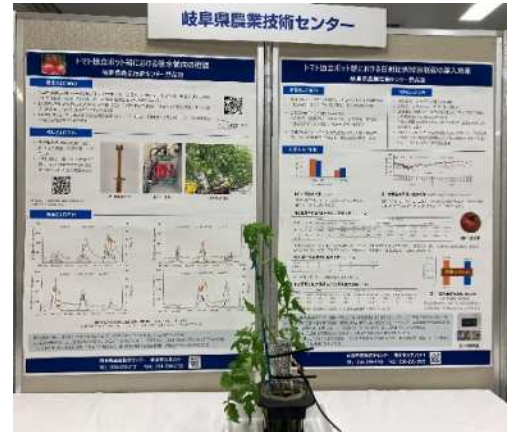
ベラフィオレビアンカ

アグリビジネス創出フェアin東海

令和6年12月5～6日に農林水産省とNPO法人東海地域生物系先端技術研究会が主催するアグリビジネス創出フェアin東海が名古屋大学野依記念学术交流館で開催され、この中で東海4県の試験研究機関が連携してアウトリーチ活動をするシンポジウムを開催しました。

1日目は企業、大学、公設試など34機関・53ブースの展示が行われ、320名以上が参加する中で、当センターからは、岐阜県方式のトマト独立ポット耕における日射比例給液制御の導入効果などの展示を行いました。展示を通して、企業等と有益な情報交換を行いました。

2日目のシンポジウムは、会場・オンライン参加併用の形式で試験研究機関、行政関係者等60名以上が参加する中で開催され、「スマート農業」をテーマに各県の取組み状況や成果についての講演が行われました。



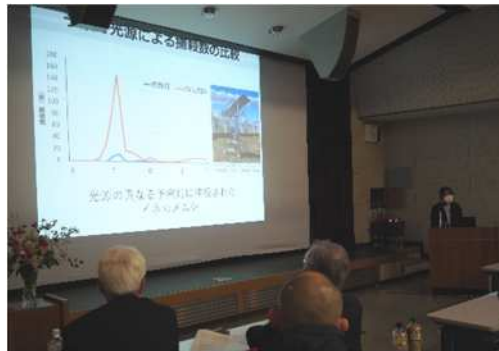
令和6年度 農業技術センター研究成果発表会を開催！

令和6年度の試験研究成果発表会を令和7年2月20日に当センター内講堂で開催しました。当センターから「鉢花用フランネルフラワーの新品種「ベラフィオレビアンカ」の育成」をはじめ5課題と病害虫防除所から「イネカメムシの越冬場所からの移動時期と水田への飛来時期」の1課題、全6課題の成果を発表しました。また、別の会場では成果の実物展示とポスターによる発表も行いました。

各地域の生産者、JA・市町・農業普及課職員など約90名が参加され、成果の活用や普及段階での課題、試験への要望等について多数の意見をいただきました。成果の普及については関係機関と連携・協力しながら迅速に行うとともに、いただいた意見を参考に研究開発や技術支援を進めてまいります。



所長挨拶



検討会の発表・討議



パネル展示(別室)

人 事 異 動 (令和7年4月1日付)

よろしくお願いします。

転入者	新所属	旧所属	転出者	新所属	旧所属
五十川一也	総務課管理調整係長	揖斐土木事務所	伊藤 友弘	消防学校	総務課管理調整係長
山田 隆史	作物部長	(作物部)	吉田 一昭	岐阜農林事務所	作物部長
吉田英志郎	作物部研究員	新規採用	加藤 克彦	西濃農林事務所	花き部長
松古 浩樹	花き部長	(花き部)	安田 圭佑	農政課	野菜部
安藤 優花	花き部研究員	揖斐農林事務所	宇野 風音	飛騨農林事務所	野菜部
石田 紘暉	野菜部主任研究員	農政課	北原健太郎	中央家畜保健衛生所	土壌化学部
塚原 茜	野菜部研究員	新規採用	鈴木 俊郎	病害虫防除所	病理昆虫部
鈴木 郁子	土壌化学部主任専門研究員	農業経営課	伊藤 祐気	農政課	病理昆虫部
妙楽 崇	病理昆虫部専門研究員	西濃農林事務所			
正村 瑠都	病理昆虫部研究員	新規採用			

岐阜県農業技術センター

〒501-1152 岐阜市又丸729-1 Tel 058(239)3131

ホームページ <https://www.g-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

